

# まなぶとはたらくをつなぐ課外授業

～大学の学びは社会で生きる～

産学協同就業力育成シンポジウム2015

## 参加者643名

(大学144名/企業171名/高校・大学生279名/その他49名) <ご参加者満足度4.5> ※5段階評価  
お忙しい中、沢山の皆様にお越しいただきました。本当にありがとうございました。

### シンポジウムダイジェスト

#### ■ SHR—座長挨拶—

Future Skills Project研究会座長 安西祐一郎 (日本学術振興会理事長・慶應義塾学事顧問)

なぜ、いま主体性が必要なのか？

激変する未来予測をもとに、今後、社会で活躍するために必要な力を考える。



#### ■ 1限—「はたらく」を知る Session-A— <B to C ビジネスを通じて社会を知る>

向井 文晴 (株)オリエンタルランド 商品本部 商品開発部プログラム商品グループ マネージャー  
小北 拓己 サントリーホールディングス(株) 人材開発本部 キャリア開発部 課長  
渡部 卓明 資生堂ジャパン(株) ブランド戦略部 トレードマーケティング室 グループリーダー  
百枝 信二 野村證券(株) 人材開発部長  
西野 雅俊 (株)ユニクロ グローバルダイレクト部 商売計画チーム チームリーダー



#### ■ 2限—「はたらく」を知る Session-B— <B to B ビジネスを通じて社会を知る>

鈴木 匠 アクサ生命保険(株) 執行役員 アクサコーポレート推進本部長  
松永 輝真 アステラス製薬(株) 人事部 組織人事グループ 次長  
橋本 賢二 経済産業省 経済産業政策局 産業人材政策室 産業労働専門職  
名和 正道 凸版印刷(株) 情報コミュニケーション事業本部 コミュニケーションデザイン本部長  
宮之原 隆 日本オラクル(株) 人事本部 シニアディレクター



#### ■ 3限—「まなぶ」を考えるSession— <「はたらく」を知って何を考えたか>

松本 隆 (株)ベネッセi-キャリア 教育サービス開発部 部長

#### —パネルディスカッション— <まなぶとはたらくをつなげる>

(仕組みを作る現場代表) 安西 祐一郎 一般社団法人Future Skills Project研究会 理事長 (日本学術振興会理事長)  
(教える現場代表) 白石 典義 立教大学 副統括  
(はたらく現場代表) 宮之原 隆 日本オラクル(株) 人事本部 シニアディレクター  
(まなぶ現場代表) 高山 晃 明治大学 商学部 4年  
(まなぶとはたらくをつなぐ現場代表) 平山 恭子 一般社団法人 Future Skills Project研究会 事務局長





## アンケートには沢山のご期待やご要望が寄せられました!!

今回初めてFSPについて知り、参加させていただきました。今までの学生生活の中で「このままではよくない」とは思いつつもここまで来てしまいましたが、まず自分たちから変わっていく必要があると思います。今後も自らが考え、動いていきたいです。  
**(大学生)**

「主体性」がこれからの人において必要とされるものが様々ありましたが、やはり熱意や思いを最後まで持って、努力をし続けることが大切だなあと感じました。また「自分を育てる」ということが、今後いろいろな面においても繋がるのだなあと思いました。  
**(大学生)**

学生がそれぞれ違うことを（しかも本質的なことを）自分なりに学び、その後につなげていることに世界で勝負していく人材を育てていくためには、この世代からこれくらいのことを要求していくんだというup sideの取り組みを見せていただけました。ありがとうございます。  
**(大学職員)**

仕組みを作る安西先生の正確な言葉の力、松本さんの本音の語りがよく伝わりました。私もTV、新聞を鶏呑みにせず、両方の思考を本に求め、自分の考えを構築するよう指導しています。松本さん、頑張ってください。  
**(大学教員)**

教員パネルで話題になったプロセス力（推論のことだと思うが）の大切さについては、ずっと考えていたことなので我が意を得たりという感じだった。仕事についていえば、ある主体的な答えが本当に正しいと裏付ける労力が凄まじい。そのスキルと学力こそが、高校、大学で必要なことだと感じた。  
**(高校教員)**

参加型のシンポジウムで学びが多かった。大学での学びの目標は、「自分で自分を育てられるようになることだ」と感じました。同時に、この目標は永遠の課題だと気づきました。キャリア教育の目標も同じだと感じました。  
**(企業)**

高校生、大学生の学びの機会にぜひ参加できたらと思います。ただし、企業の側も長期的な視点で捉える必要がありますね。自分たちの生き様を自問する時間となりました。  
**(企業)**

終了したときのこの気持ちをどのように持続し、周囲に伝えていけるかが心配です。高校生はどのように感じただしょうか？ 自分の可能性を信じて頑張りたくなりました。ありがとうございました。  
**(官庁・公的機関)**

## 今後の研究会に関して

2015年1月末日にて、2015年度の全FSP講座を修了致しました。  
講座ダイジェストはこちら：<http://blog.benesse.ne.jp/fsp/activity/2015/>

2016年度は、参加企業がいよいよ100社を超える予定です。引き続きましてFuture Skills Project研究会では、日本の社会に活気を取り戻すために、海外の人材に日本の若者が負けないために、産学が当事者意識をもって連携し、実践を重ね、共に考える仲間を集うために研究会会員を募集中です。ご興味のある方には案内書を送付いたしますので、下記までご連絡願います。

